

# 農業技術

## フリスム



諫早済十拓地では大規模環境保全型農業が取り組まれ、除草剤を使わない農法が求められています。かんぴょうの原料、ユウガオは野菜生産の端境期となる夏期に収穫できる品目として有望ですが、雑草の発生により収穫量が減少します。そこで、エン麦の「ハイオーツ」をリビングマルチにして、抑草効果とユウガオの収量性を検討しまし

た。リビングマルチとは、エン麦やソルゴーなどの被覆作物を利用して雑草の発生や土壌の流出を抑える技術です。「ハイオーツ」はもともと飼料作物です

### かんぴょう原料ユウガオ エン麦で雑草を抑制 収穫量 慣行比27%増

が、緑肥作物としても使われ、すき込むことで堆肥と同様の有機物の補給効果を得ることができま

「ハイオーツ」は、ユウガオ作付け前の2014年2月13日に播種（はしゅ）し、5月14日にフレールモアで刈り敷きを行いました。ユウガオは、「しもつけしろ」を同年3月5日に播種し、4月8日に定植しました。

その結果、リビングマルチの

（県農林技術開発センター 松尾憲一）

抑草効果は7月中旬まであり、雑草の発生量も無処理と比較すると3分の1に減少しました（表）。リビングマルチを用いることで、10㎡当たり収穫量は慣行区と比べ27%多い12・3tありました。

収穫量は、収穫初期はリビングマルチを用いても無処理と同水準ですが、雑草の生育が旺盛な7月以降はリビングマルチを用いた場合、収穫量が多くなります。

今後はリビングマルチを用いて、ユウガオの異なる作型や他の品目での抑草効果を検討する予定です。

表 雑草量の推移と収量

調査日	雑草量(単位:g/㎡)				収量 (t/10a)
	6月23日	6月30日	7月18日	7月30日	
リビングマルチ区	2	3	78	264	12.3 t
慣行区	218	322	591	429	10 t